

## 1 自己評価

## I 評価結果

(別紙参照)

## II 分析・改善方策

学校経営目標に基づいた目標管理が具体的に行えるよう、全ての部署が校長の定めた本年度の学校経営目標「『本物品質』未来に向かう倉商ブランド 確かな学力と人間力を育成し、地域と共に歩む学校」の達成に向け、事前に「数字で見る倉商」と名付けた校内の様々な数値データをまとめた資料および学校評価アンケートの結果をもとに現状分析を行い、問題点や改善点を明示した。その分析を踏まえ、学校経営目標に準拠して各部、室、学年の目標やその達成基準、具体的取組が可視化できるようにした。また、新たに職員の働き方改革に関する目標を設定することで勤務負担軽減への取組の共通理解を図った。それらを踏まえ、直面する課題解決のために各部署が協力して教育活動に取り組んだ。

「最終達成状況と評価」においては、評価の根拠を可能な限り数値化して経年比較を行うと共に、校内企画委員会、職員会議において年間総括を行い、一年間の取組の成果と課題を全教職員で共有した。その結果を踏まえ、「今後の課題」として次年度に向けての取組や改善すべき点を明確にし、次年度に向けての円滑な目標設定と実施、改善が担当部署ごとに行えるように配慮した。

## 2 学校関係者評価委員名

河野 秀樹（本校元PTA会長）

前岡 修允（倉敷観光コンベンションビューロー課長）

時任 英人（倉敷芸術科学大学 名誉教授）

石本 廣志（元倉敷商業高等学校教員、倉敷商業高等学校同窓会顧問、同岡山南支部長）

## 3 学校関係者評価

第3回学校関係者評価委員会の席上において、各委員より標記学校経営目標の取組に対して活発な意見や改善案を頂いた。以下にその内容を示す。

「学習はもとより、部活動やボランティア活動を通じて学力と人間力の育成に大きな力を注がれており、結果が伴っていると感じる。」「教員による生徒への働きかけや関わり方に細やかな配慮がなされており、それが数値的目標の達成に寄与しているものと思われる。また、各学年の視点から問題点や課題を明確にし、達成に向けた計画、実施実績などに尽力されている様子があり、学校全体が健全で良好な印象である。」「評価の数値化はなかなか困難な面もある。それを少しずつ工夫しつつ、遂行されている点を評価したい。また、教員の方々もいつも、いろいろやられている点も評価したい。」「具体的な学校経営計画に基づき、個々の目標に向けて先生方の努力が、各種資料や説明からよく分かった。」などの意見が出された。

加えて、「非常に多くの取組をされており、負担も大きいと思います。負担軽減、働き方改革をぜひ強く進めていただきたい。」「良い学校になればなるほど、目標の設定、達成評価の改善は難しくなっていると思われる。また、学校、学年による目標から、より個人個人への関わりへのニーズが高まっていて、現場はより多忙を極めていると思う。」など、改善につながる意見も頂いた。

## 4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

- ・今年度の学校経営目標に準拠した取組の成果と課題を職員に周知し、さらなる改善を目指して設定された目標の意義や目的を職員間で共有すると共に、生徒の確かな学力と人間力の育成を第一に考えた目標設定を行うよう周知する。
- ・今年度の学校経営目標の達成状況を踏まえ、引き続き全教職員が授業改善、生徒の学力向上に取り組んでいく。それにより、一人一人の生徒が自ら主体的に学ぶ力を身につけ、教科の学習はもとより、部活動や地域連携活動に意欲的に取り組むことで地域のビジネスリーダーとして活躍できる力を伸ばさせていく。また、適切な勤務状況への共通理解を進め、働き方改革の視点に立った勤務の在り方を実践するよう努める。